

2011年度 代表事業③

事業名

6月度第一例会 交流例会 絆

委員会

会員交流委員会

委員長：筒井 崇史

副委員長：柴田 貴之

副委員長：高野 光之

幹事：廣瀬 直樹



事業趣旨要約

私達は毎年繰り返される会員の大幅な入れ替わりにより、お互いを知らない会員が多く存在し、会員同士の繋がりが希薄になっています。また、私達の支えとなってきている家族や大切な人たちに、日々どのような活動や運動を行っているかあまり知られていません。

静岡青年会議所がこれまで以上に飛躍するためには、会員同士の強い繋がりと家族や大切な人の理解と協力なしには行っていくけません。そこで、本例会を通じて会員同士がお互いを知り、一人ひとりの繋がりをこれまで以上に強固なものにすることで、強い結束力が生まれるよう努めます。また、家族や大切な人には、日々どのような活動を行っているのかをしっかりと知っていただき、今後の活動や運動に対し理解と協力が得られるような設営を行います。お互いが思いやりのこころを持った繋がりは強い結束力を生み、強固な絆の構築の礎になり、家族や大切な人の理解と協力は静岡青年会議所にとって更なる飛躍に繋がります。

背景

- ・毎年繰り返される会員の大幅な入れ替わりにより、お互いのことを知らない会員が多い。
- ・静岡青年会議所が活気溢れる組織になるためには会員一人ひとりの繋がりが必要。
- ・静岡青年会議所の活動や運動を継続していくためには、家族や大切な人の協力が必要。

効果

- ・思いやりのこころを育み、絆の構築の礎を築くことで、活気溢れる静岡青年会議所になる。
- ・会員同士お互いを知り、結束力を強固にすることで、静岡青年会議所の更なる飛躍に繋がる。

例会の流れ・目的

- ①お互いを知るため、家族にJ.Cの活動をしてもらうための委員会紹介。
 - ・各委員会のメンバー、及び、活動内容などを紹介。
 - ②お互いを知り、一体感を図るための、自己紹介、作戦会議、チームづくり。
 - ・チーム内にて自己紹介後、役割分担などを話し合う。ゲームに向けた作戦会議を行う。
 - ・チームの旗を皆で製作する。(クリスマス家族会でも使用する。チームの手形、名前、メッセージが入った旗)
 - ③思いやりのこころを育むための食材獲得ゲーム・竹食器作り。
 - ・チーム内メンバーと子ども達とで竹を材料に食器を製作。(お皿とコップ・・・カレー皿として使用する。)
 - ・カレーの食材を獲得するためにゲームを2種類用意する。
 - (1) チーム(委員会)に配る食材の量を意図的に不公平にする。全部のチームが同じ分量の食材となるよう、お互いのチームが話し合い協力して食材を分け合う。
 - (2) 食材(追加トッピング) 争奪ソリレースの開催。ソリの引手(大人)と乗り手(子ども)1組で1チーム各6組のレース。希望の食材を奪うためのゲーム。
- ・結束力を強めるため、委員会でカレー作り。
 - ・チームで集めた食材を基にカレーを作る。全員で分担、協力しあって量ご飯を作る。

達成検証

事業目的に達した点：

- ・会員・家族との交流を深める事により、思いやりのこころと結束力を強める事が出来た。
- ・家族に対して日々の活動を理解していただけた。
- ・各委員会の会員・家族の出席率が異なり、しっかり交流が図ることができなかった委員会があった。

所見

山間地で天候の悪い中の例会となりましたが、多くの家族の参加を頂き、またプログラムの運営に際して参加者の配慮を頂き、大きな事故や怪我もなく例会を執り行う事が出来ました。共通の目的に向かって協力しながら対処する事で、結束力を高める事を狙いとして本例会を実施致しました。悪天候が逆に、会員・家族との助け合いと譲り合いを自然と行う事と、テントやサイトに集まる事により他の会員・家族との交流の機会が増えるなど、期待以上の効果がありました。反省として、事前の準備が高湿多湿の時期だったため予想以上に委員会メンバーの体力の消耗が激しく当日の運営に余裕がない状態と成りました。時間と人員の最適化を考慮することが今後の課題です。

目的

- ・会員や家族・大切な人に支えられている事を知り、思いやりのこころを育むことで、結束力を強固なものにする。
- ・家族・大切な人に、日々の活動や運動を理解していただくことで、LOMの更なる飛躍に繋げる。

事業概要

日時場所：2011年6月18日(土) 11:00~13:00 梅ヶ島金山温泉バーベキュー場
参加人数：静岡JC会員 (結果、110人)
事業総額：737,939円



担当委員長Q&A

01 家族との交流企画を行い委員会メンバーの意識はどのように変わっていききましたか？

家族や大切な人、日々どのような活動を行っているのかをしっかりと知っていただくために今回の交流企画を行いました。会員交流委員会としてLOMメンバーとLOMメンバー家族や大切な人を招待することで、家族や大切な人から今後の活動や運動に対し理解と協力が得られるようになりました。そして、お互いが思いやりのこころを持った繋がりに強い結束力を生み、強固な絆の構築の礎になりました。

02 家族との交流企画を行いLOM全体の意識はどのように変わっていききましたか。

会員・家族との交流を深める事により、思いやりのこころと結束力を強める事が出来ました。

03 それぞれの違う委員会メンバーを交流させるためにどのような点を工夫しましたか。

共通の目的に向かって協力しながら対処する事で、LOM全体としての結束力を高める事を目的に本例会を実施致しました。そして、例会当日の悪天候というアクシデントが、会員・家族との助け合いと譲り合いを自然と行う事と、テントやサイトに集まる事により、他の会員・家族との交流の機会が増えるなど、期待以上の効果がありました。

04 参加メンバー・家族を集めるときの苦労話、工夫した点、それを行ったことで得たものはございますか。

参加メンバーや家族が集まっていたために自然の中会員同士や家族が楽しめる場を提供しつつ、ゲームを行いながら懇親をできる内容にするためにどうすればいいかと考えて例会を企画しました。一番の苦労は3月11日の震災以降の例会なので場所の選定や、このような例会がタイミング的に相応しいのかを考えた上程していた点が挙げられます。しかし、静岡LOMとして交流を深め結束することが将来のまちづくりに対するLOM活動に反映されると信じて活動しました。

取材全体としてのまとめ・感想

全LOMメンバーとその家族や大切な人との交流の場を提供することによって、LOMメンバー同士の交流が深まり、また、大切な人からのJCI活動の理解を深めることができた例会となりました。その交流の場を提供するために会員交流委員会は準備を念入りに行い、野外での設置という困難を委員会メンバー全員で協力して乗り越えてきました。

05 野外での例会ということで、準備する点で苦労した点、それを通して委員会メンバーが学んだことはありますか。

野外での例会は雨天の判断です。雨天で場所や内容が変わってしまうので、場所の選定に苦労しました。また、例会を通して、前日からの設備準備などで委員会メンバーと苦労を共にしました。そして、メンバーやその家族へ交流の場を提供するための設備の重要性を感じて行動し、その結果、当例会が無事成功することが出来、改めて設備の準備の重要性を学びました。

06 屋外で行う例会ということで特別な対策を行いましたか。また当日の雨に対する対策は何かでしたか。

屋根のある会場を事前に選定した例会なので対策ってほどのことはなかったのですが、反対に小雨が降ったおかげで例会の盛り上がるソリ競争が雨で滑りが良くなりスムーズな進行になりました。

07 他委員会の人員配備での工夫や体制について教えてください。

他委員会の協力ですが受付を総務委員会でお願しました。それ以外は、当委員会メンバーだけで運営する例会にして、全LOMメンバーが交流を楽しんでもらうことを基本姿勢に活動した。



取材前と後での特に気付いた点

野外で行う交流例会と聞き、多くの委員会メンバーが例会運営に携わるようになったものだと思っていたがそうではありませんでした。実際は、担当委員会が設備企画・準備・当日の運営をすべて担い、裏方に徹していました。それは、この例会の目的である、全LOMメンバーとその家族と大切な人との交流の場を提供するということが実行された現れだと思いました。そして、交流の場を提供することで苦労を共にした委員会メンバー同士は、さらに絆を深めたことでした。